

旧五戸高に野辺地西高移転

町が誘致 27年開校で調整

宮下知事 無償譲渡の方針

五戸町は28日、学校法人光星学院（八戸市、法官新一理事長）が運営する八戸学院野辺地西高（野辺地町）を、2022年3月に閉校した旧青森県立五戸高の跡地に誘致する方針を明らかにした。誘致に伴い、町は同日、旧五戸高の土地・建物を所有する県に対し無償譲渡を申請。宮下知事によると、「譲渡する方向で考えている」と応じた。関係者によると、移転校は27年4月に開校する方向で調整している。町と光星学院は20日、町役場で記者会見を開き詳細を説明する。



旧五戸高校の無償譲渡を求め、宮下知事（左）に申請書を提出する若宮佳一町長（右）、青森県庁

【22、23日に関連記事】

野辺地西高を巡っては、校舎の老朽化や入学者減少などを理由に、23年6月に八戸学院光星高（八戸市）への統合案が急浮上したが、当時の保護者らが反発し白紙撤回となった。関係者によると、学校側はその後も保護者らと将来の在り方について意見交換を重ね、移転への理解を得たという。

県庁で旧五戸高の無償譲渡を申請した若宮佳一町長は「方向性がしつかり定まった」と報告。宮下知事は「町の将来にとっても明るい話題。できる限り協力していく」と述べた。若宮町長は面談後の取材に、跡地取得後は学院側に複数年にわたって無償で貸し付ける方針を示した。

町は申請に先立ち、町議会全員協議会で誘致の概要

を説明。複数の町議によると、学院側は27日に臨時理事会を開いて野辺地西高の移転を承認したという。町は校舎改修などの課題

ケジュールに関しては「法人（光星学院）の計画だ」と述べるにとどめた。一方、光星学院側は具体的な対応について、29日の記者会見で説明するとしている。無償譲渡については条例に基づき、公共性などを確認した上で事務手続きを進める。県議会の議決は不要。県財産管理課によると、旧県立高の無償譲渡は、昨年鶴田町を介して学校法人下山学園に旧鶴田高を譲り渡した例がある。移転する見通しとなった野辺地西高は、むつ小川原開発によるエンジニアの需要拡大をにらみ、1973年に光星学院野辺地工業高として設立。97年に光星学院野辺地西高と改称した後、2013年から現名称となっている。上北、下北地方で唯一の私立高で、特にサッカー部は強豪校として知られる。（田村純也、藤野武）